

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2019年4月20日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成29年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

事業名	初等教育改善事業（第2年次） Project for Improvement of Primary Education	
事業対象地	アフガニスタン カブール市およびナンガハル県	
事業期間	2018年1月26日～2019年月1月25日	
公的資金種別	平成29年度 日本NGO連携無償資金協力	
総支出	総支出額：93,700,783円	
プロジェクト 目標および、その 達成度	「カブール市およびナンガハル県の児童の学習環境の改善」を目的に事業を実施した。（ア）校舎建設活動を通して、864人に安全で快適な学習環境を整備することができ、（イ）図書室改善活動を通して、27,073人の児童と989人の教員が良質な図書にアクセスできる環境を整備した。そして（ウ）子どもの学校外教育活動を通して、通してジャララバード市内の子ども達延べ38,842人が学校外教育へアクセスでき、不就学児童40人が公立小学校1年生と同様のカリキュラムを修了することができた。これらのことから、目的である児童の学習環境改善に資することができた。	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 教室不足の解消を目的に、カブール市内ゾーン11にあるシャラク・タラ小学校に、教育省建設局の学校建設設計基準に従った1階建て8教室の校舎および水洗トイレ5室1棟を建設した。完成後は、各教室に児童用の3人掛け机・椅子を18個と教員用の机・椅子、教材保管用の戸棚を設置した。2019年1月1日に竣工式を実施し、建設した校舎をカブール市教育局に譲渡した。	受益者数 864人の児童
	(2) 学校図書室改善活動 対象校14校（カブール4校、ナンガハル県10校）に対して、学校図書室の設置を行い、対象校1校あたり、現地で出版した絵本および紙芝居と日本から郵送した図書9タイトル50冊を含む合計859冊を供与した。建設事業対象校を除く25校において、「一般教員研修」と「図書室担当教員研修」をそれぞれ2回実施した。	延べ26校 27,073人の児童と989人の教員
	(3) 子どもの学校外教育活動 ジャララバード市内の子ども図書館を運営し、市内の児童に対して学校外教育の機会を提供した。この子ども図書館では、図書の閲覧や貸し借りだけでなく、絵画や工作、縫製、詩の朗詠などのプログラムを提供しており、月に1度、祝日や利用者たちの誕生日を祝う特別行事も実施した。	38,842人

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2019年4月20日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

成果	<p>(1) 校舎建設活動</p> <p><b><u>16 クラス、656 名の児童が安全で快適な教室で学習できている。</u></b></p> <p>4月16日に使用状況を確認するモニタリングを行ったところ、16教室675人の小学生児童が新校舎を使用して学習を行っており、計画時の指標を上回っていた。また事業前に49クラス1,906人だった児童数は、50クラス1,952人に増加した。これは校舎が完成したことにより、子どもたちだけでなく、地域住民や保護者の教育への意識が高まったことが理由であると、学校教員への聞き取りにより分かった。</p> <p>(2) 学校図書館改善活動</p> <p><b><u>「対象校 25 校において、1 校あたり月 300 冊以上の図書が児童に貸し出されている。」</u></b></p> <p>モニタリングの結果、1校あたり月232冊(目標比77.3%)の図書の貸出を確認した。ナンガハル県対象校では、月平均263.8冊(目標比率87パーセント)の本が貸し出されており、カブール市対象校では、月平均131冊(目標比43.6%)であった。成果指標が達成できなかった理由としては、治安の悪化と、図書館担当職員の手当が一時的に差し止められたことが挙げられる。</p> <p>(3) 子どもの学校外教育活動</p> <p><b><u>①1日あたり120人の児童が学校外教育活動に参加している。</u></b></p> <p>事業期間を通して、38,842人の子どもが子ども図書館を利用した。1日当たりの利用者は165人であり、この指標を上回っている。</p> <p>ジャララバード市内の治安の悪化や、選挙などの社会情勢の変化により、開館日数は減少しているものの、利用者数は例年に比べて急増しており、子どもが自由に学習したり遊んだりできる場所や機会の必要性が伺えた。昨年に引き続き、パキスタンからの帰還民や国内避難民の子どもたちだけでなく、学校に行けない子どもや路上で働く子どもの利用もあったことから、様々な理由で公教育にアクセスできない脆弱層へアプローチできたと言える。</p> <p><b><u>②不就学児童35名が教育の機会を得ている。</u></b></p> <p>4月から12月の9か月間、不就学児を対象に特別教室を開講し、9歳から13歳の子どもたち40人が参加し、これを修了した。今後、ナンガハル県教育局が実施するテストに合格すると公立小学校への編入が可能となる。本年度実施されたテストでは、前年に本教室を修了した40人中38人が公立小学校への編入を果たしており、本年度修了した児童もその多くが公立小学校への編入が期待される。</p>
課題と対応策	<p>活動(2)に関して、以下のような課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・治安の悪化</li></ul> <p>2018年6月の停戦期間後のテロ攻撃の激化、また10月に行われた下院選挙、その事前有権者登録に関連する襲撃の増加などにより、治安が悪化した。特にナンガハ</p>

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2019年4月20日

報告書名：平成29年度 日本 NGO 連携無償資金協力 完了報告書

ル県では、教育に従事する INGO 事務所、教員養成校、教育省などの教育関係機関や組織を対象とする襲撃が相次ぎ、たびたび公立小学校が臨時閉鎖となっている。反政府勢力からの警告を受け取った学校もあり、特に保護者からは、授業とはいえ子どもたちが学校へ長時間滞在することを不安視する声が上がっている。このような不安定な情勢のなかで、子どもたちが学校で過ごす時間が減少し、それに伴って図書室の利用率も下がっている。実際に、ナンガハル県対象校5校は前年からモニタリングを行っており、今年の図書貸出実績は、去年の月平均423.5冊から65%減の278冊であった。

・図書館担当職員の手当が停止

本国大統領の汚職防止施策の一環で、これまで教育省により制度化されていた図書室担当教員に対する手当が差し止められている。これにより、学校レベルで図書館担当は決めるものの、校長や一般教員が兼務している場合が多く見られている。図書館担当職員の交代や不在が児童の読書機会を確保するための課題となることは、これまでも指摘しており、各県レベルの教育局へは随時相談を行っている。ナンガハル県の教育局からは本活動に肯定的な理解を得ており、本教育局を通して、趣意書を作成、中央への提言を2度行っている。